

「令和 6 年度陸上昆虫類等調査」における 河川水辺の国勢調査を行う上での 猪名川における補足事項(案)

国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所

1. 作成・運用に向けたロードマップ（案）

これまで、河道掘削モニタリング及び簡易魚道モニタリングを実施してきたが、今後は河川水辺の国勢調査を活用して猪名川・藻川全体の環境変化の把握及び評価を実施する新たな取り組みを行っていくために、「河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)」(以下、「補足事項(案)」)を作成し、令和2年度から運用している。(表-1)。

2. 委員からの主な指摘と対応

令和4年度の猪名川自然環境委員会では、「底生動物調査」の調査結果のとりまとめ及び考察・評価の補足に対する指導・助言をいただいた(表-2)。

3. 補足事項（案）の更新

いただいた指導・助言を基に、「補足事項（案）」の更新版を作成し、別紙にとりまとめた。

令和5年度の猪名川自然環境委員会では、令和6年度の河川水辺の国勢調査の対象となる陸上昆虫類等調査について内容を確認する。

表-1 「河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)」の作成・運用に向けたロードマップ
(令和2年度 第29回猪名川自然環境委員会での提示資料)

検討項目	平成30(2018)年度			令和元(2019)年度			令和2(2020)年度			令和3(2021)年度			令和4(2022)年度			令和5(2023)年度			令和6(2024)年度			令和7(2025)年度		
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月
河川水辺の国勢調査を行う上での 猪名川における補足事項(案)																								
本資料の考え方・骨子の整理																								
本資料の作成・更新																								
猪名川自然環境委員会における指導・助言																								
河道掘削箇所のモニタリング・簡易魚道のモニタリング																								
河道掘削モニタリング計画																								
河道掘削箇所のモニタリングの実施																								
簡易魚道モニタリング計画																								
簡易魚道のモニタリングの実施																								
簡易魚道のモニタリング結果のまとめ																								
本資料の運用によるモニタリング																								
(河川水辺の国勢調査)																								
工事箇所環境配慮																								
工事予定箇所の現地確認																								
工事予定箇所の環境面からの評価																								

表-2 委員からの主な指摘と対応(第32回猪名川自然環境委員会、第26回猪名川自然環境委員会 構造検討部会)

主な論点	質問・意見の要約 内容	対応		掲載 ページ
		第32回 委員会 (R5.1.27)	第26回 部会 (R5.10.23)	
補足地区 ①の箇所 の変更	・ 汽水域～淡水域の範囲が変化するため、猪名川の補足地区①は、下流端は1.0k、上流端は3.8kまで入れた方がよいのではないか。調査の方法・頻度・回数・箇所などではできない範囲で実施することになるが、調査範囲としてカバーできている方がよいのではないかと。	○	－ (本日部会が対象)	P.15～P.16 P.19 P.31
	・ 汽水域～淡水域に生息する底生動物について、ヌマエビ類を着目する種に加えていたかどうか。	○	－	P.36
	・ 考察・評価においては、横断測量や航空写真撮影を実施した際に、これらの物理環境に関する情報を、調査結果と合わせて記録しておくことが重要である。	○	－	P.36
	・ 調査時期の文章で「盛夏になると、水温が高温になり魚類の活性が低下するため、注意が必要である。」との記載があるが、感潮域から河川域で調査を行う上ではあまり生じないのではないかと。決定的なことを記載しない方がよく、留意が必要である。	○	－	P.20
陸上昆虫 等調査	・ 令和4年度の河道掘削箇所付近でヒメボタルが多数確認されており重要であるため、令和6年度河川水辺の国勢調査において陸上昆虫等調査を行う際に留意が必要である。	○	－	P.61
	・ シルビアジミの情報が記載されていないため、加えていただきたい。	－	○	P.48～P.49 P.48～P.49
	・ 猪名川自然環境委員会の委員には陸上昆虫類等の学識者がいないため、陸上昆虫類等専門とする委員に入ってもらいたい。	－	○	P.48～P.49
	・ 2023年12月21日に、学識者にヒアリングを行った(結果は以下の通り)。 ・ シルビアジミの成虫は年5回ほど発生する。春は5月上旬～中旬(GW明け頃)、夏は7月中旬～8月上旬、秋は10月下旬以降に個体数が多い。シルビアジミの生息状況を確認する上では、補足事項(案)及び河川水辺の国勢調査で定める調査時期に問題はなく、補足事項(案)の調査時期を追加・修正する必要がある。 ・ 本種の生息には、草刈りと食草(シロツメクサ、ミヤコグサ)の状態が重要な要素となると考えられる。補足事項(案)として、調査地区における草刈りの実施状況と、ミヤコグサの有無を記録するとよい(可能であれば在来種のミヤコグサか外来種のセイヨウミヤコグサかも分けて記録できるとよい)。			